

令和6年度 地域情報化アドバイザー制度活用報告書

地域情報化アドバイザー制度の活用実績について、下記のとおり報告します。

記

1. 申請団体情報

1-1. 申請団体

団体名	都城市		代表者名	池田 宜永	
担当者部署(属性)	その他	担当者部署名	総合政策部デジタル統括課	連絡先電話番号	0986-23-2156
担当者役職	主査	担当者氏名	野田 佳和	連絡先E-mail	
住所	885-8555 宮崎県都城市姫城町6街区21号				

1-2. 推薦団体（「区分」が「協議会」または「NPO・商工会・大学等」の場合のみ入力）

団体名		連絡先部署		連絡先E-mail	
担当者氏名		連絡先電話番号		連絡先E-mail	

1-3. 支援を求める内容

支援方法	職員向け啓発・研修（単独）	事業名（予定）	BPR研修		
概要	デジタル化を推進するうえでの、デジタルを前提としたBPRの重要性及び具体的な手法について研修を頂く。				
支援を求める分野	人材（DXに関する知識習得・研修・育成）				

2. 地域情報化アドバイザー派遣実績

2-1. 対応日・時間	期日・支援内容の変更あり	受付番号	変更後の派遣日	変更後に実施した支援内容	実地/オンライン
	無				
	派遣日予定日（申請書より）	支援内容（申請書より）	開始時刻	終了時刻	内休憩時間（分）
	令和7年1月23日	講演(実地)	14時00分	16時00分	
				活動時間（分）	120
2-2. 派遣場所	会場名	都城市役所	最寄駅	西都城駅	
	所在地	都城市姫城町6-21	最寄駅からの交通手段	徒歩	

3. 派遣アドバイザーに対する評価と要望

支援を受けたアドバイザーに対する評価をお願いします。

アドバイザー	種子野 亮
評価	大変よい
上記評価の理由（どのようなところがよかったか等詳細に）	なぜBPR（業務改革）をする必要があるのか、これまでの背景や「そもそも業務とは何か」という視点から、わかりやすく解説していただいた。また、業務改革においては、「どうやってやるのか？」に気を取られがちだが、それよりも業務改革の結果「どこを目指すのか?」「誰が実現するのか?」という視点が非常に重要であり、その理解なしには改革は難しいというお話を、ご自身のこれまでの経験なども踏まえながら講義いただいた。非常にわかりやすい研修であった。
アドバイザーへの要望事項	特になし

4. 依頼内容及び支援を受けたことによる成果・効果

4-1. 支援を受けた対象者	属性（職員、一般、企業等）について【自由記述】	合計人数	23人
	自治体職員	住民	企業・団体
	人数	23	その他(学生など)

4-2. 支援を受けるにあたって目指した成果と実勢に支援を受けたことで改善又は解決した成果・効果

事業の課題・問題点（具体的にご記入下さい）	本市では、「～非効率をデジタル化していないか～無駄な部分をデジタル化することなく、業務改革とセットで考える」という基本的な考えを持ってデジタル化を進めているが、デジタル関連事業立案の際に、ソリューションを意識しすぎるが故に、デジタルを導入することばかりに意識がいき、BPRを伴わない事業案も見受けられ、結果として、デジタルに職員が苦しむケースも散見されることである。一方で、BPRの重要性を伝えたとしても、デジタルを前提としたBPRの手法について、デジタル統括課にもノウハウがなく、掛け声倒れになってしまう。
支援により目指す成果（具体的にご記入下さい）	BPRを踏まえたデジタル化に関する職員の意識醸成を図り、市民目線の地域情報化を推進し、地域便益が高いデジタル化を全庁体制で意識していくことで、書かないワンストップ窓口のような誰もがデジタル化の良さを実感できるサービスを構築する。

アドバイザーに支援を受けた内容 (具体的にご記入下さい)	BPR（業務改革）に重要性について、下記の三部構成の内容のご説明いただいた <ul style="list-style-type: none"> ・第一部：業務改革の真の目的、業務改革の背景など ・第二部：業務とはなんなのか？、業務改革の3つの基本（「どこを目指すのか？」「どうやってやるのか？」「誰が実現するのか？」）」等 ・第三部：業務改革のススメ型、ポイント、改革とはなんなのか？等 加えて、最後にグループでの振り返りを行った。	
支援を受け改善又は解決された内容 (具体的にご記入下さい)	業務改革の必要性や重要性について理解を深めることができた。また、業務改革を進める上で意識するべきことや、業務改革の課題をご自身の経験を交えてお話いただき、業務改革の難しさを受講者全員で共有することができた。BPRとは業務について根本から問い直すプロセスであり、業務の仕組みと文化を根本的に変える取り組みであること、変化に対応するための「不確実性に強いチームづくり」が改革の本質であり、デジタル化はあくまで改革の手段にすぎないことをご教示いただいた。今回の講演が受講者の業務改革への意識醸成の機会となった。	
具体的な成果物	最も当てはまるものをリストより選択下さい。 特になし	⑥途中段階であり、具体的な成果物はできていない
改善又は解決されなかった内容 持ち越しとなった内容 (具体的にご記入ください)	特になし	
アンケートの内容と分析結果	講演・セミナー又は個別の事業支援の実施にあたりアンケートを行った場合は、その内容と分析結果についてご記入下さい。(EXCELやPDFでの分析結果を添付されても結構です。) アンケートを行わなかった場合はその理由をご記入下さい。 今回の講演は、BPRの重要性、その手法について受講者に理解していただくために実施しておりますので、アンケートは不要と判断しました。	
4-3. 今後の計画	最も当てはまるものをリストより選択下さい	⑤その他
4-4. 事業の最終的な目指す姿	BPRを踏まえたデジタル化に関する職員の意識醸成を図り、市民目線の地域情報化を推進し、地域便益が高いデジタル化を全庁体制で意識していくことで、書かないワンストップ窓口のような誰もがデジタル化の良さを実感できるサービスを構築する。	

5. 報告書に関しての地域情報化アドバイザーホームページ「派遣事例」への掲載許可		https://www.r-ict-advisor.jp/cases-case-good-practices/past_year_all_houkoku/
掲載許可	<input type="radio"/> 掲載可	

なおくその他>を選択した場合、具体的な記入が必要となりますのでご注意ください

6. 地域情報化アドバイザー支援の様子
今回の派遣における地域情報化アドバイザーの支援の様子がわかる「写真(JPEG)」を次ページに数枚程度貼り付けて下さい。

